

膳所瓢箪茶入 銘白雲

この茶入は、(公)静嘉堂文庫美術館が所蔵する品です。滋賀県大津市の膳所で焼成された代表的な作品で、江戸時代初期の大名で茶人でもある小堀遠州(1579～1647)が好んだ瓢箪形をしています。膳所の窯場は、遠州の指導によって始められたと考えられています。この窯場では、遠州好みの茶道具が多く生産され、遠州は生産された茶道具の中から優品を選び、自ら銘を付けました。



膳所瓢箪茶入 銘白雲(江戸時代前期ごろ)

この茶人は、瓢箪のくびれた部分の下方にたまたった白濁した釉の模様から白い雲を連想して「白雲」と命銘されたと考えられています。遠州は「古今和歌集」等の和歌から引用して銘を付けることが多い中、白雲は、「江談抄」の中の漢詩を引用して命銘しました。白雲は、江戸時代後期の大名で茶人でもある松平不昧(1751～1818)によって中興名物(茶人の名品)に格付けされた由緒ある茶入です。

白雲は、特別展「小堀遠州と川越藩士―遠州と酒井忠勝の交流を中心に―」で展示されています。遠州にゆかりのある茶入を、ぜひこの機会に間近で見てください。

日程：10月10日(土)～11月15日(日) 経費：入館料

埼玉川越総合地方卸売市場協力会



埼玉川越総合地方卸売市場(大袋)には魚や野菜のほかに肉

や卵を扱う業者など49社が出店しています。その全出店者が加入しているのが市場協力会です。

「全国の市場の中でも、協力会があるのは川越くらいですよ」と話すのは副会長の波崎好則さん。



一斉清掃の様子

毎週土曜日の「お客様感謝市」のイベントを考えたり、月に1回の市場内一斉清掃を行ったりしています。同じく副会長の文屋昌雄さんは「今、力を入れているのは市場内の美

化と活性化です」と話します。トイレの改装や喫煙ルームの設置などに加え、メールマガジンで各種催しなどのお得な情報を発信しています。

市場では、11月15日(日)に新鮮な食材の販売やさまざまな企画を行う「川越市場まつり」を開催



昨年の川越市場まつりの様子

します。新鮮な食材が豊富にそろった市場に、ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。

この時期に市内の直売所などで購入できる主な川越産野菜

サツマイモ、米、ブロッコリー、ホウレンソウ、コマツナ、ナス、ゴボウ、ダイコン、サトイモ、カキ、カブ、ネギ、イチジク、エダマメ、オクラ

翌日、近くの農家を訪れりと、籾から籾殻を取り除き、玄米にして袋詰めする作業をしていました。次々と積み重ねられていく米袋を見ると、どうしても新米が食べたくなりまして。早速、農産物直売所で購入。その晩食べた炊きたての新米は、格別の味わいでした。



秋 晴れが続いた9月下旬、近所の田んぼでは何軒もの農家が稲刈りをしていました。刈り終えたばかりの田んぼに近づいてみるとガサガサと音が。隠れ場所がなくなつたカエルや昆虫があちこちで動いています。子どもころ、田んぼに近づくと、イナゴが一斉に飛び跳ねていた光景や、イナゴの佃煮を食べたことを思い出しました。

編集後記

どんぐり